

学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	枕崎市立別府小学校	児童生徒数	119人
-----	-----------	-------	------

振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等

○ ロイロノートに**毎時間**「自分の問い」と「振り返り」を記述するようにしています。

○ **単元の学習前と学習後に**感想を書かせて、感想の違いから学習を振り返らせました。

振り返りカード

学習前

- ・ごんぎつねは兵十にあやまりの気持ちで栗や松茸をあげて優しいと思った。

学習後

- ・兵十は栗や松茸をくれたのは神様だと勘違いしていたけどごんは怒らずに、兵十に毎日毎日つくないをしていたのが優しいと思った。

【二つを比べてどう思いますか？】
学習前は何も考えずに気持ちを書いたからくわしくないけど情景などから登場人物の気持ちを考えてたら感想がくわしくなった。

【先生から】
学習前もしっかりとごんの気持ちを理解しようとしていたことがわかりました。しかし、学習後は、さらに、深いところまでごんの気持ちを理解していることが伝わってきました。ごんは勘違いされていたけど、毎日、栗や松茸を兵十の家に持って行きましたね。先生もそこに癒しを感じます。よい学習ができましたね。

拡大図

【単元のふりかえり】

情景のようすから、ごんの気持ちを想像することができた。次に物語を読むときは、情景から登場人物の気持ちを考えていきたい。

【先生から】

・いろんな観点から登場人物の気持ちを読み取ることができましたね。振り返りにもあるように、ぜひ、今回学んだことを生かして読書を楽しんでください。

聞き取りメモのくふう

単元の振り返りカード

学習前【動画】

どんな様子かな？
【はじめ】
・何もメモできていなかった。
・校長先生の目を見ていなかった。

学習後【動画】

どんな様子かな？
【おわり】
・校長先生先生が言ったことを思い出してメモできていた。
・校長先生を見ていた。
・ほくほくするようになったね。もう少し思いだしてメモできたらよかったね。

取組についての概要（成果）

10月2日（月）～ 第4学年 国語科 教材名「ごんぎつね」における実践

「振り返り」は毎時間毎に振り返る活動と、単元を通して振り返る活動を取り入れました。この単元では、「登場人物の様子や言動・心の声・情景・背景」が書かれている文に線を引く（ワークシートを用意）、そこから登場人物の気持ちを想像する学習を行いました。児童はその「読み方」を使って、どんどん物語に入り込んでいきました。児童の様子としては、最後の場面に「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」という文から、「青いけむりは、ごんの魂を表していて、どんどん息絶えていく様子が想像できる。ごんは兵十のためにがんばっていたからむねんだったに違いない」とイメージを膨らませていました。振り返りには、「わでかいも（分かったこと・できるようになったこと・変わったこと・生かしたいこと・もっと知りたいこと）」を用いました。

今回の単元では、振り返りを行うことで、「読み方」の有用性について児童自身が考え、「自分にとって納得のできる学び（個別最適な学び）」が実現できたのではないかと感じました。

